

鎌ヶ谷市の家計簿

【かまがやの財政状況はどうなっているの?】 平成25年度決算より抜粋

平成25年度の一般会計の決算は、歳入総額が356億3千万円、歳出総額が336億9千万円となっており、単年度の収支（形式収支）では、19億4千万円の黒字となりました。

なお、26年度に繰り越した事業の財源約2億8千万円を除いた収支（実質収支）は、約16億6千万円の黒字となりました。

歳入では、普通交付税の減等により地方交付税は減少しましたが、地域の元気臨時交付金等により国庫支出金は増加となりました。また学校給食センター建替事業債やきりり鎌ヶ谷市民会館整備事業債の増により、市債についても増加となりました。

歳出については、人件費は減少が見られましたが、投資的経費、扶助費（生活保護費などの社会保障費）や公債費などは増加となりました。なかでも投資的経費は上述のとおり、学校給食センター及びきりり鎌ヶ谷市民会館等の整備により、大幅な増加となりました。

家計簿にすると… 市の決算状況をわかりやすくするため、Kさん一家の家計簿に例えてみました。Kさん一家には、お子さんが4人（4つの特別会計）いて、お子さんはそれぞれ家庭を持っています。市の決算（歳入総額356億3千万円）をKさん一家の一ヶ月の収入10万円としたときに、どんな家計簿になるのでしょうか。

家計簿にすると…		市の一般会計		
収入	親からの援助	41,200円	地方交付税・国庫補助金など	146億8千万円
	給料	41,000円	市税・使用料・手数料など	146億2千万円
	銀行ローン	10,200円	市債(臨時財政対策債を除く)	36億1千万円
	先月からの繰越金	4,800円	繰越金	17億2千万円
	銀行預金の引き出し	1,900円	基金からの繰入金	6億7千万円
	子ども4人からの返金	900円	特別会計からの繰入金	3億3千万円
	収入の合計	100,000円	歳入総額	356億3千万円

家計簿をみると、給料は収入全体10万円の約4割しかないことがわかります。親からの援助（主に国）の増減がKさん一家の家計に大きく影響することがわかります。

家計簿にすると…		市の一般会計		
支出	医療費	19,000円	扶助費(福祉にかかる経費)	67億7千万円
	自宅の増改築・修繕	18,200円	投資的経費(建設費)・維持補償費	64億8千万円
	食費	16,600円	人件費	59億3千万円
	光熱水費・生活用品購入	11,500円	物件費(消耗品の購入・設備点検委託)	40億9千万円
	子ども4人への仕送り	8,600円	特別会計への繰出金	30億5千万円
	ローン返済	7,300円	公債費(市債の返済)	25億9千万円
	自治会費やサークル活動費	7,100円	補助費等(団体等への補助金)	25億4千万円
	銀行に貯金	6,300円	積立金(基金に積立)	22億4千万円
	支出の合計	94,600円	歳出総額	336億9千万円

家計簿をみると、収入の10万円に対して、支出は9万4,600円となり、医療費と、自治会費やサークル活動費が支出の約3割を占めていることがわかります。医療費については、高齢化に伴い、どんどん増えていく傾向にあります。

収支（形式収支）：家計簿にすると…収入100,000円－支出94,600円＝5,400円

市の一般会計…歳入総額356億3千万円－歳出総額336億9千万円＝19億4千万円

市の貯金は… 貯金である基金の平成25年度末残高については、平成24年度末残高と比較して約16億円増の約66億円となっており、市民一人当たり約6万円の貯金をしていることになります。

なお、この基金残高は、過去最高額となっております。

市の借金は… 借金である地方債については、古くなった学校給食センターの建替や小・中学校の耐震化など多くの事業に活用した結果、平成25年度末で約298億円の地方債残高となっております。これは、市民一人当たり約27万1千円の借金をしていることとなりますが、県内36市の平均である約30万円を下回っており、少ない方から数えて19番目となっております。

